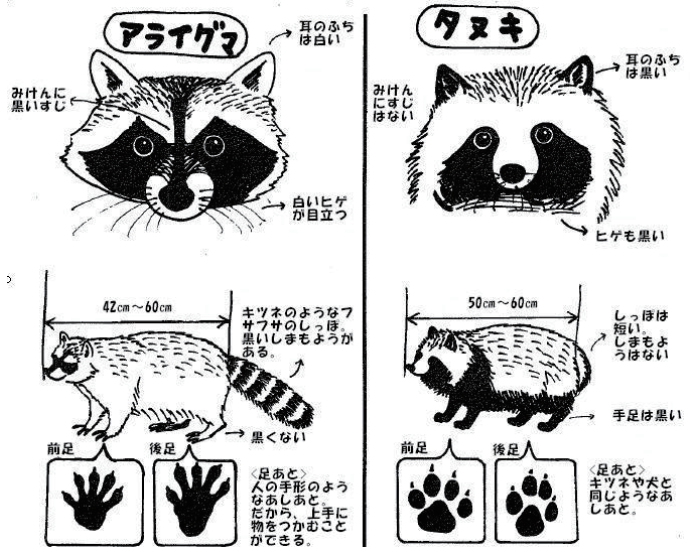


アライグマを見かけた時に注意すること



アライグマの見分け方



引用：土別市ホームページより
イラスト：旭山動物園 白木雪乃
情報提供：ファームエイジ株式会社

アニメでも知られるアライグマですが、アニメの人気で80～90年代に2,000頭ほどペットとして輸入されたそうです。

しかし、アライグマは気性が荒く、成長すると飼育が困難なため飼い主が自然環境に捨てたり、飼育施設から逃亡したりと日本各地で定着が進み、増えて困っている状態です。

実はアライグマは、可愛いだけでは済まされない面を持っています。

生態系や人体、農林水産業に悪影響を及ぼし、または及ぼすおそれのあるものとして、外来生物のうち「特定外来生物」というものに指定されています。指定されると、研究目的等で許可を得たものを除き、輸入、販売、飼養等（飼育・栽培・保管・運搬）が禁止される動物なのです。

アライグマの被害には3種類あると言われています。

1. 生態系被害：手に振れるものは何でも捕食することがわかっています。川の中を移動することが多いため川の水棲生物に被害が多い。
2. 農作物被害：トウモロコシやスイカなど果実、野菜、穀物など農作物への被害。
3. 生活被害：天井裏に棲みつくだけでなく、糞尿や外部寄生虫など衛生面の問題も発生。

私たちが住んでいるいすみ市では、千葉県の中でも目だっているアライグマが増えている地域だということです。これに伴い、アライグマの被害は、被害額、被害面積ともに夷隅地域では他を引き離して最も大きく（5,599千円、2.55ha、平成27年度）、捕獲数では年間1,000頭を超えて年々増えています。

アライグマは農地や市街地で発見されること多く、特に春

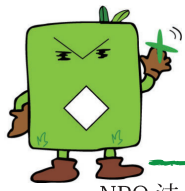
から初夏の繁殖期には、家屋に侵入し天井裏に棲みつき子育てをすることも多いそうです。

もし、アライグマを見かけた時に気を付けることをまとめておきます。

1. 可愛いからと安易に近づかない。アライグマは気性が荒いため、噛まれたり、引っかかれたりして怪我をする恐れがあります。
2. 糞尿や血液、鼻汁、唾液、皮膚などに接触することで、感染症にかかる恐れがありますので、触れないようにしてください。
3. また、もし、噛まれたり、引っかかれたりして、傷ができたなら、破傷風などにかかる危険性もありますので、ただちに病院を受診してください。

今回はアライグマの例をご紹介しましたが、田舎暮らしをしていると、野性哺乳類を見かけることも少なくありません。しかし、アライグマに限らず野生哺乳類にはいろいろな病気の元になるものを持っている場合も少なくありません。安易に近づくことは控えるようにしましょう。

※この記事は、平成30年度地球環境基金助成金の助成を受けて3月18日に加藤卓也氏加藤卓也氏（日本獣医生命科学大学獣医学部 野生動物学研究室 博士（獣医学））を招いて行った「野生哺乳類が媒介する疾病と対策についての勉強会」を参考に、NPO法人いすみライフスタイル研究所で作成しました。



いら研の地球環境基金助成活動ご案内

NPO 法人いすみライフスタイル研究所（いら研）では、平成 28 年度から地球環境基金の助成を受けて、「森・里・水田・川・海一体型環境保全による夷隅川流域での生物多様性と里山・里海環境維持活動」を行っています。これまでの主な活動をご紹介します。

国際会議「第 5 回生物の多様性を育む農業国際会議 in いすみ」支援活動

アジア各国で生物多様性の保全・再生の視点で取り組まれている有機農業や環境保全型農業、それらを基盤としたまちの活性化を議論するために、2018 年 7 月 20 日（金）～ 22 日（日）の 3 日間、「第 5 回生物の多様性を育む農業国際会議 in いすみ」がいすみ市で開催されました。



私たちは、開催地専門委員会の中核団体として、この国際会議を地域で盛り上げ、そのことによって、生物多様性や環境保全型農業の大切さを市民の方々に知っていただくために、以下の活動を実施しました。

1. 第 13 回日韓田んぼの生きもの調査交流会
2. 紙芝居「たんぼでもぐもぐ」の制作と上演会
3. いすみの生物多様性を育む農業現地見学
4. エクスカーションⅠ：いすみ鉄道で行く房総の里山
5. エクスカーションⅡ：いすみの里海と器械根クルーズ
6. エクスカーションⅢ：いすみのオーガニックライフ
7. 映画「ホッパーレース」上映会
8. 研究ポスター発表・展示

ビーチクリーンと夷隅川リバークリーン

まずは里海を綺麗にする行為と啓蒙活動として、ビーチイベントでのビーチクリーンを行ってきました。

また、いすみパドルクラブさんの協力を得て、SUP（スタンド・アップ・パドル）を使い、毎月夷隅川のゴミ掃除をしています。親子連れの参加も多く、子供たちも楽しみながらゴミ拾いをしてきています。月々の夷隅川リバークリーンに参加してくださる仲間を募集しています。参加、お問い合わせは、いすみパドルクラブ（0470-62-5073）、もしくは、当 NPO までご連絡ください。



有害鳥獣勉強会

イノシシやキョン、アライグマなどの有害鳥獣の被害も年々増えてきていることから、有害鳥獣対策の勉強会を行っています。手塚幸夫さん（房総野生生物研究所代表）にご協力いただき、イノシシ対策の専門家・仲谷淳さん（中央農業総合研究センター）に来ていただいて、集落単位での対策勉強会を行いました。



総合学習への協力

子供たちに環境の大切さを知ってもらうために、地域の小中学校の総合学習にも積極的に協力しています。

これまで、岬中学校のビーチクリーンや環境をテーマにした卒業制作、夷隅小学校の総合学習などに協力してきました。



いすみ暮らしサポート

いすみ・外房地域での快適で安心な田舎暮らしづくりを、いら研がサポートします。

1. 移住相談承っております。いすみ市や外房地域への移住相談、移住後の暮らし相談など、お気軽にお問い合わせください。
2. 住まい探しのご相談をはじめ、地元の信頼できる建築士さん、工務店さん、大工さん、水道・ガス工事屋さんなど住まいに関わるプ

ロフェッショナルを、ご相談内容に応じ適切な相手をご紹介します。

3. 新築からリフォーム、ちょっとした大工仕事、電気工事、水周り工事などまで、幅広くご相談を承っております。
4. 店舗・事務所づくりをお考えの方は、ご希望に応じて、上記に加え、シャッター屋さんや看板屋さんなどもご紹介。
5. 空き家や空き地の管理、掃除・片付け、不用品の処分など。

お気軽にお問い合わせください。

ニュースレター「isumi-style.com」2019 臨時増刊号 地球環境基金助成事業 獣害対策勉強会小型哺乳類編

発行日：2019 年 3 月 22 日 重刷：2021 年 3 月 3 日

発行者：NPO 法人いすみライフスタイル研究所
〒299-4616 千葉県いすみ市岬町長者 475
Tel：0470-62-6730 Fax：0470-62-6731
E-mail：isumi-style@bz03.plala.or.jp

発行人：高原和江
執筆・編集・DTP：江崎 亮

※右：このパンフレットは平成 30 年度地球環境基金助成金の助成を受けて作成し、2020 年度の助成で増刷しました。
※左：いら研は、SGDs（Sustainable Development Goals- 持続可能な開発目標）を視野に入れたまちづくりに取り組んでいます。

